

検討のポイント（案）

1. 主要設備（水力発電設備を除く）**（1）送電設備（特に、黒川一宮線）**➤ **鉄塔の耐震性と地すべりリスク**

- ・ 地震動による鉄塔の倒壊はなかったか。耐震性は十分であったか。過去に指摘された対策は講じられていたか。
- ・ 地すべりや土砂崩れにより、どれだけの鉄塔が傾斜ないし倒壊したか。今回の地震を踏まえて、地すべりリスクの再評価や新たな対策が必要か。

➤ **送電設備の機能確保と冗長性**

- ・ 地震動や地すべり、土砂崩れにより、送電設備の機能に支障は生じたか。生じていた場合、規模はどの程度であったか。
- ・ 今回の地震を踏まえて、送電設備のバックアップは、十分であるか。

➤ **仮鉄塔・仮鉄柱による対応**

- ・ 仮鉄塔・仮鉄柱の用地確保や敷設は円滑に行われたか。
- ・ 今回の対応を踏まえた教訓や課題、共有すべきベストプラクティスは何か。平時から準備すべき事項はあるか。

（2）変電設備➤ **変電設備の耐震性**

- ・ 変電設備の耐震性は十分であったか。過去に指摘された対策は講じられていたか。

➤ **変電設備の機能確保と冗長性**

- ・ 漏油等の影響により、変電設備の機能に支障は生じたか。生じていた場合、規模はどの程度であったか。
- ・ 今回の地震を踏まえて、変電設備のバックアップは、十分であるか。

➤ **漏油による環境影響**

- ・ 漏油により何らかの環境影響が生じたか。

（3）その他設備（配電設備等）➤ **電柱等配電設備の耐震性**

- ・ 電柱や地中配電設備等の耐震性は十分であったか。過去に指摘された対策は講じられていたか。
- ・ 家が倒れかかるなどして傾いた電柱等が、他の復旧活動の妨げにならなかったか。そのような場合の対応手順はどうあるべきか。

➤ **太陽光、風力の耐震性（※ 新エネWGで対応）**

- ・ 太陽光・風力発電設備の耐震性は十分であったか。過去に指摘された対策は講じられていたか。

2. 復旧オペレーション

(1) 停電の復旧

➤ 停電復旧対応

- ・ 停電復旧対応は円滑に行われたか。
- ・ 今回の対応を踏まえた教訓や課題、共有すべきベストプラクティスは何か。

➤ 重要設備の優先順位付けのあり方

- ・ 優先的に電気を供給すべきとされている重要設備（官公庁、医療施設、避難所等）の見直しは必要か。
- ・ 重要設備に設置された非常用発電設備は十分に機能したか。停電復旧までの間に必要となる電源車等への燃料供給は円滑に行われたか。
- ・ 災害時において、優先復旧すべき重要設備の状況をどのように把握し、優先順位を、誰がどう決定し、それをどういうルートで電力に伝えるべきか。

(2) 電源車による対応

➤ 今回の対応（面的供給）の捉え方、系統復旧との関係

- ・ 今後の停電復旧対応において、電源車による面的供給をどう位置づけるべきか。停電復旧対応において、面的供給が有効な場合とはどのようなものか。

➤ 電源車応援要請のあり方

- ・ 他電力に対する電源車派遣の応援要請のタイミングは、適切であったか。早期の停電復旧実現のためには、どのような場合に、電源車の応援要請をすることが適切か。

➤ 他電力における対応・準備のあり方

- ・ 応援要請が来ない段階において、他電力ではどのような対応・準備を行っていたのか。今後、そのような状況下において、他電力はどのような対応・準備を行うべきか。

➤ 電源車対応円滑化のために平時から準備すべき事項

- ・ 国・自治体・事業者において、電源車対応円滑化のために平時から準備すべき事項として、どのようなものがあるか。（重要設備の把握、広域支援受け入れを見据えた訓練等）

<以下の項目は、次回以降>

(3) 電気火災への対応 (※消防庁の検証を踏まえて検討)

- 通電再開のあり方
- 感震ブレーカーの設置

3. 水力発電設備 (※九州電力の検証を踏まえて検討)

(1) 設備の耐震性等の事前対策

- 貯水槽や水圧管路の耐震性の評価・対策のあり方。
- 地すべりリスクの評価・対策のあり方。
- 設備損壊時の周辺への影響想定
- 取水口のフェールセーフ機能のあり方

(2) 発災後の被害拡大防止

- 発災後のオペレーション
- 余震時の保安停止の考え方

以上